

メール文にみられる「ことができる」の使用状況

—提出遅れを伝えるメール文を用いて—

金庭久美子（目白大学）

k. kaneniwa@mejiro. ac. jp

【要約】

本研究では、I-JAS の「レポート（原稿）の提出遅れの連絡」のメールタスクを用い、日本語母語話者 48 名、および日本語学習者 165 名を対象に「提出できないことを伝える」際と「締め切り日の延長を依頼する」際において可能表現の使用状況を調査した。その結果、日本語母語話者は「ことができる」の使用が多かったが、学習者は「可能動詞」の使用が多くみられた。日本語母語話者が「ことができる」を選択する理由として、書き言葉的であることのほか、相手が親疎関係の疎であるため、相手に配慮して使用している可能性が示唆された。「ことができる」の使用について、改めて学習者に指導が必要であることがわかった。

1. はじめに

本研究は「ことができる」という表現に注目する。「ことができる」は初級レベルの教科書で扱われることが多い。例えば、可能表現について『みんなの日本語初級Ⅰ』および『みんなの日本語初級Ⅱ』では以下の課で扱われている。

- (1) ミラーさんはピアノをひくことができます。『みんなの日本語初級Ⅰ』第 18 課練習 A-2
- (2) ここで切符をかうことができます。『みんなの日本語初級Ⅰ』第 18 課練習 A-3
- (3) わたしははしがつかえます。『みんなの日本語初級Ⅰ』第 27 課練習 A-2

寺村（1982）の分類によれば、(1)は能力可能、(2)は状況可能の表現であり、(3)は可能動詞である。『みんなの日本語初級』では(1)や(2)の「ことができる」を学んだあと、(3)のような可能動詞としての表現を学ぶことになっている。(1)の場合、実際の使用場面では「ミラーさんはピアノがひけます」のように可能動詞を使った方が自然なように思われる。一方、(2)のような状況が可能であることを示す場合は可能動詞を用いるより「ことができます」を用いた方が違和感がない。「ことができる」と「可能動詞」の違いについて、文法書には「ことができる」がやや書き言葉的で「可能動詞」が話し言葉によく使われる（市川 2005）と書かれているが、それだけでよいだろうか。

本研究ではその疑問を明らかにするために、レポート（原稿）の提出遅れの連絡のメールタスクを用いて、日本語母語話者や日本語学習者が使用する以下の「ことができる」が含まれる表現に着目する。

- (4) 提出できないことを伝える

どうしても明日までに仕上げることができそうにありません。

(5) 締め切り日の延長を依頼する

もう一日だけ締め切りを延ばしていただくことはできないでしょうか。

(4)と(5)について、日本語母語話者と日本語学習者の「ことができる」の使用状況から「ことができる」をどのように使うのがよいのかを明らかにし、今後の指導方法について考えてみたい。

2. 先行研究

本研究のきっかけになったのは、金庭他（2017）の研究である。金庭他（2017）では、来日遅れを伝えるメールタスクで、事務員に初回の授業に出席できないことを伝える時の表現に注目した。その際のデータが表1である。表1をみるとわかるように、日本語母語話者の30名中19名が「できない」（例：出席することができません）を使っており、可能動詞（表1「③可能形」）を使用したのは1名のみであった。それに対し韓国、中国、ドイツの学習者は「できない」だけでなく可能動詞の使用もみられる。そこで、あらためて「ことができる」に着目して、調査することにしたい。

表1 タスクB「出席困難」を述べる表現（金庭他 2017:81 表4）

	日	韓	中	独
①～そうにない系	5	2	0	0
②～（こと）ができない系	19	6	5	8
③可能形（行けない等）	1	6	11	8
④なさそう系	0	4	0	1
⑤無理	0	0	1	1
⑥難しい・厳しい	3	2	0	1
⑦困る・悩む等	0	2	5	4
⑧その他	2	5	2	5
⑨該当なし（回答依頼等）	0	3	6	2

「ことができる」と可能動詞について、渋谷（1998）は OPI のインタビューデータを収集した KY コーパスを用いて、可能動詞・助動詞とデキル類の比較を行っている。「スルコトガデキル」について、中国語母語話者や英語母語話者に比べ、韓国語母語話者が多かったが、その理由について、韓国語の母語転移であろうと述べている。渋谷（1998）には説明がないが、渋谷（1998, p.77 表4）のデータを見ると、韓国語母語話者は中級レベル（14件）より上級レベル（45件）、超級レベル（21件）の方が可能動詞を使っており、習得が進めば可能動詞に移行する可能性もある。また、中国語母語話者や英語母語話者に可能動詞の使用が多いが、その理由は母語の影響とは考えられず、独自の習得ルートがあることが予想されるとしている。確かに渋谷（1998）の扱った KY コーパスでは中国語母語話者や英語母語話者に可能動詞の使用が多くみられたが、使用したコーパスが話し言葉であることが理由のように思われる。

本研究では、前述の例(5)のように依頼表現にも注目する。前田（2021）は可能表現が「依頼時の丁

寧さ」を表すことができるとし、「～してもらえる？」のバリエーションとして「もらえますか」「いただけますか」「もらえないでしょうか」「いただけませんか」などの19の表現を示している。前述の例(5)では、可能動詞を用いず「ことができる」を用いて「いただくことはできないでしょうか。」となっており、前田の述べるバリエーションがさらに増える可能性がある。一方、金（2022）は前田（2021）の研究を受けて、「私の代わりに会議に出席できませんか？」のような依頼表現を伴わない言い方でも、丁寧度は下がるものの依頼を含意させる表現だとしている。本研究においても日本語母語話者や日本語学習者が依頼表現を伴わない依頼を用いているのかみてみたい。

3. 研究の目的

本研究では、レポート（原稿）の提出遅れの連絡のメールタスクを用い、以下の点を明らかにする。

- 1) 日本語母語話者、および日本語学習者は上記のタスクで可能表現をどのように使用しているか。
- 2) 両者の使用状況から、「ことができる」はどのように使うのがよいのか。
- 3) 「ことができる」を指導する際に留意すべき点は何か。

4. 調査

4.1 調査概要

本研究では「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」（以下 I-JAS）^{注1}で収集された3つのメール課題のうち、メール文2「レポート（原稿）の提出遅れの連絡」を使用する。

調査対象者は、日本語母語話者48名、日本語学習者は中国40名、韓国49名、オーストリア31名、スペイン45名である。I-JASの中で人数の多いものを選んだ。調査対象者の SPOT90^{注2}の情報は表2の通りである。SPOT90において、中級レベルは56点から80点とされており、いずれも中級レベルの学習者である。

表2 調査対象者（I-JASより）

調査国	コード	人数	SPOT90 平均
日本	JJJ	48	
中国	CCH	40	72.9
韓国	KKR	49	80.7
オーストリア	GAT	31	64.5
スペイン	SES	45	56.9

資料1～3は、メール文2「レポート（原稿）の提出遅れの連絡」のタスク内容（左）とメール文の例（右）である。資料1は日本語母語話者の学生を対象としたものであり、資料2は日本語母語話者の学生以外の自然環境の人を対象としたものである。資料3は日本語学習者を対象としたものである。資料1～3からわかるように I-JAS では作文調査環境別にプロンプトが多少異なるが、下線を引いたターゲットの表現の箇所は同等であるとみなす。

資料1 メール2 A-1 日本語母語話者 母語話者 (学生)

<p>A-1 あなたは、田中和夫先生の語学の授業で学期末のレポートを提出しなければなりません。提出の締切は明日ですが、一週間前から友人が遊びに来ていたため、明日までにレポートを書き終えることができそうにありません。レポートを出さないと進級できず、それは困るので、田中先生にメールを書いてください。</p>	<p>件名：レポートの締め切りについてのご相談 本文： 田中先生 【名前】です。いつもお世話になっております。明日締め切りのレポートですが、どうしても明日までに仕上げる<u>ことができそう</u>にありません。これはすべて私が悪いのですが、もう一日だけ締め切りを延ばしていただく<u>ことはできない</u>でしょうか。本当に申し訳ありません。 【JJJ04】</p>
--	---

資料2 メール2 A-2 日本語母語話者 国内 (自然環境)

<p>A-2 あなたは地域の広報誌に載せる原稿を書くように、広報誌の責任者の田中和夫さんに頼まれています。提出の締め切りは明日ですが、一週間前から友人が遊びに来ていたため、明日までに原稿を書き終えることができそうにありません。田中さんにメールを書いてください。</p>	<p>件名：原稿提出期限延長のお願い 本文： 広報 田中様 こんにちは、【名前】です。 田中さんから以前依頼を受けていた原稿ですが、明日までに書きあげることができそうにありません。というのも、一週間程前から遠方より友人が家に遊びに来ていたため、原稿を書く時間がどうしても取れませんでした。無理なお願いは承知の上ですが、もう少し提出期限を延ばして頂く<u>ことはできません</u>でしょうか？よろしくお祈いします。 【JJJ16】</p>
--	--

資料3 メール2 B 海外の日本語学習者 海外 (教室環境)

<p>B あなたは、田中和夫先生の「現代日本の政治」という授業で学期末のレポートを提出しなければなりません。提出の締め切りは明日ですが、一週間前から友人が遊びに来ていたため、明日までにレポートを書き終えることができそうにありません。それでも、どうしてもレポートを提出して今年のうちにその授業の単位が必要なので、田中先生にメールを書いてください。</p>	<p>件名：学期末レポートの締め切り 本文 田中先生、こんにちは。 現代日本の政治の授業に参加している【名前】です。実はお願いがあってメールしました。 明日は、学期末レポートの締め切りですが、友達が一週間訪れてくれたので、レポートを書き終える<u>ことができま</u>せん。単位がとても必要なので、レポートを来週の火曜日までに<u>出させていただけない</u>でしょうか。 お返事お待ちしております。どうぞよろしくお祈いいたします。 【GAT29】</p>
--	--

4.2 調査方法

調査は次に示す方法で行なった。資料1から3をみると、2つの箇所「ことができる」または可能動詞が使用されている。例えば、資料1では、以下の文脈で使用されている。

(4) 提出できないことを伝える

どうしても明日までに仕上げることができそうにありません。(再掲)

(5) 締め切り日の延長を依頼する

もう一日だけ締め切りを延ばしていただくことはできないでしょうか。(再掲)

そこで、調査1では、提出できないことを伝える文脈の表現に注目し、調査2では、締め切り日の延長を依頼するという箇所表現に注目する。特にこのような文脈で「ことができる」を使用しているかどうかをみることにする。文字列検索では「ことができ」「ことが出来」「ことはでき」「ことは出来」で検索を行い、さらに「ことは どうしても でき」のように「ことができる」の間に「どうしても」等の他の表現が入ることもあるため、目視で再確認を行った。

5. 結果と考察

5.1 調査1の結果

調査1では「提出できないことを伝える」という文脈で使用している表現に注目した。日本語母語話者と学習者が使用した具体的な表現は、表3に示す通りである。

表3 調査1の「提出できないことを伝える」の使用例

	日本語母語話者	日本語学習者
A 「ことができる」	<ul style="list-style-type: none"> ・明日までに原稿を書き上げる<u>ことができない</u>状況です。(JJJ17) ・提出する<u>ことができそう</u>もありません。(JJJ27) 	<ul style="list-style-type: none"> ・明日まで提出する<u>ことはどうしてもできません</u>。(CCH55) ・提出期限を守る<u>ことはできない</u>と思います。(KKR45) ・完了する<u>ことが出来ない</u>ように見えます。(GAT02) ・論文は終る<u>ことが出来ませんでした</u>。(SES25)
B 可能動詞	<ul style="list-style-type: none"> ・明日までに書き<u>終えられ</u>そうにありません。(JJJ32) ・明日には原稿を<u>届けられ</u>そうにありません。(JJJ45) 	<ul style="list-style-type: none"> ・明日までには提出<u>できません</u>。(CCH11) ・明日までレポートを完成<u>できない</u>と思います。(KKR21) ・レポートは間に<u>合え</u>そうにありません。(誤用)(GAT41) ・レポートをまだ<u>書けません</u>でした。(SES41)
C その他	<ul style="list-style-type: none"> ・明日の締め切りに<u>間に合い</u>そうにありません。(JJJ46) ・明日の提出が<u>難しい</u>状況です。(JJJ50) 	<ul style="list-style-type: none"> ・明日の締め切りには<u>間に合わない</u>のです。(CCH09) ・どうしても明日までは<u>無理だ</u>と思います。(KKR38) ・レポートはまだ<u>完成していません</u>。(GAT46) ・まだ最後まで<u>書いておりません</u>。(SES28)

表3からもわかる通り、日本語母語話者にも、日本語学習者にも「A ことができる」「B 可能動詞」の表現があることが観察された。

表3に挙げたA「ことができる」「B 可能動詞」「C その他」について、「提出できないことを伝える」という文脈で使用した数を調べた。その結果を表4に示す。

表 4 から、「ことができる」を最も多く使用したのは、日本語母語話者（31.3%）ということがわかる。スペインの学習者は「ことができる」（26.7%）と可能動詞（28.9%）はほぼ同じ程度使用している。一方、可能動詞の使用が最も多かったのは中国の学習者（60.0%）で、次いで韓国（51.0%）、オーストリア（35.5%）、スペイン（28.9%）で、日本語母語話者（16.6%）が最も少なかった。

表 4 調査 1 の「提出できないことを伝える」の使用数

調査国	コード	人数	A ことができ	B 可能動詞	C その他	該当箇所なし
日本	JJJ	48	15	8	24	1
			31.3%	16.6%	50.0%	2.0%
中国	CCH	40	2	24	13	1
			5%	60.0%	32.5%	2.5%
韓国	KKR	49	6	25 (6)	18	0
			12.2%	51.0%	35.7%	0%
オーストリア	GAT	31	5	11(2)	12(3)	3
			16.1%	35.5%	38.7%	9.6%
スペイン	SES	45	12	13	18	2
			26.7%	28.9%	40%	4.4%

※()は可能形と思われるが、活用が誤っているものの数

5.2 調査 1 の考察

調査 1 では「提出できないことを伝える」という文脈で使用している表現に注目した。その結果、日本語母語話者は可能動詞より「ことができる」を多く使用することが明らかになった。また、日本語学習者は「ことができる」より可能動詞を多く用いていることがわかった。

渋谷（1998）の扱った話し言葉の KY コーパスでは中国語母語話者は可能動詞を使う傾向がみられたが、書き言葉のメール文である本研究も同様で中国の学習者は可能動詞を最も多く使用した。一般的に可能動詞は話し言葉的であり、「ことができる」はやや書き言葉的である（市川 2005）とされていることから、中国の学習者をはじめ、多くの日本語学習者は話し言葉の可能動詞と書き言葉の「ことができる」を区別していないと考えられる。

一方、日本語母語話者は「ことができる」の使用の方が多く、可能動詞と区別して使用しているように思われる。「(7)提出することができそうもありません。」は、寺村（1982）の分類でいえば、前述の(2)の状況可能であるが、「提出できそうもありません」と言わず、「ことができる」をあえて選んでいることから、何か別な要因がありそうである。このプロンプトの場合、書き言葉のメール文であるが、それに加え親疎関係も考慮する必要がある。送り手は学生、読み手は先生、あるいは送り手は執筆者、読み手は出版社の社員という関係になっており、送り手は親疎関係の疎の相手にメール文を送ることになる。したがって、日本語母語話者の場合、相手に配慮して情報を伝える必要があると考え、より硬い表現でフォーマルな場面でも使える「ことができる」を選んだのではないだろうか。つまり親疎関係の疎の相手に対し、丁寧に伝える場合は、可能動詞より「ことができる」が好まれるということになる。

金庭他（2017）では「事務員に初回の授業に出席できないことを伝える時」の表現としてみたが、「事務員」が疎の関係であること、「できない」ことを伝える際の表現という点で、本研究のタスクと類似

している。したがって、金庭他（2017）の日本語母語話者も相手に配慮して情報を伝えるために「ことができる」を選んだのではないと思われる。

付け加えて、プロンプトの影響についても考えてみたい。「ことができる」については、プロンプト内に「明日までにレポートを書き終えることができそうにありません。」という表現があり、日本語母語話者の場合はそれを用いて「ことができる」を使用した可能性もある。しかしながら、プロンプトと同じ「書き終えることができそうにありません」という表現を使用した者は2名のみであった。そのため、日本語母語話者の場合、プロンプトに書かれていても自分なりに判断してメール文を作成していると思われ、プロンプトの影響はあまりないと思われる。一方、日本語学習者は「ことができる」の使用が少ないことから、プロンプトの影響は受けていないと思われる。

調査1から次のことは言えるのではないだろうか。

(ア) 日本語母語話者は丁寧さを要求される場面では「ことができる」を使用する傾向があるが、学習者は使い分けをしていない。

(イ) 「ことができる」は配慮を示す必要がある場面で使用され、可能動詞より丁寧な印象を与えている。

5.3 調査2の結果

調査2では「締め切り日の延長を依頼する」という文脈で使用している表現に注目した。日本語母語話者と学習者が使用した具体的な表現は、表5に示す通りである。

表5 調査2の「締め切り日の延長を依頼する」の使用例

	日本語母語話者	日本語学習者
○ことはできる/ことは可能	<ul style="list-style-type: none"> ・期日を2、3日後に延ばしていただくことはできますでしょうか。(JJJ19) ・提出期日を延ばしてもらうことはできるでしょうか。(JJJ15) ・レポートの提出締切を延長していただくことはできませんでしょうか。(JJJ20) ・締切日を延長していただくことは可能でしょうか。(JJJ33) 	<ul style="list-style-type: none"> ・CCH なし ・期末レポートの提出期間を明後日までに延ばすことはできませんでしょうか。(KKR38) ・よろしければあっさまでに出すことができませんか。(GAT25) ・それは明後日、プロジェクトを与えることができますか。(SES07)
P-1 可能動詞 (いただける/もらえる)	<ul style="list-style-type: none"> ・何日かもう少し時間をいただけないでしょうか。(JJJ09) ・どうかもう1日待って頂けませんでしょうか。(JJJ26) ・締め切りの期日を延長していただけないでしょうか。(JJJ37) ・もう一日だけ提出を待っていただけないでしょうか。(JJJ51) 	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し締め切り時間を延長していただけないかでしょうか。(CCH34) ・どうか遅れて提出させていただけないでしょうか。(KKR03) ・できれば今回、もう少し時間をいただけないでしょうか。(GAT12) ・よかったら、もう少し時間をいただけないでしょうか。(SES28)
P-2 その他の可能動詞	<ul style="list-style-type: none"> ・寛大な処置をお願いできないでしょうか。(JJJ03) ・レポートのできたところまでを見ていただくことはお願いできませんでしょうか。(JJJ06) 	<ul style="list-style-type: none"> ・私はあっさでにレポートを提出できますか?(CCH32) ・どうしてもレポートの期限延長はできませんか。(KKR41) ・GAT なし

		・らいしゅうはプロジェクトを送れますか。(SES47)
Q よろしいいい	<ul style="list-style-type: none"> ・**日までに提出させていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。(JJJ17) ・締め切りを少し遅らせていただいてもよろしいでしょうか？(JJJ35) 	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の時間を延期してもらってもいいんですか？(CCH13) ・学期末のレポートの期限を少し延ばさせていただいてもいいですか。(KKR34) ・来週の月曜日までに出してもよろしいでしょうか。(GAT27) ・ちょっとしばらくして、出してもよろしいですか。(SES38)
R その他	<ul style="list-style-type: none"> ・あと2日、御猶予をいただきたく存じます。(JJJ08) ・締切を1～2日延長していただくわけには参りませんか？(JJJ43) 	・提出期限の日延べをお願いして頂きたいと思ひまして、メールをお書きしました。(GAT33)

表5からわかる通り、日本語母語話者にも、日本語学習者にも「O ことができる」「P-1 可能動詞(いただける/もらえる)」「P-2 可能動詞(その他)」「Q よろしいいい」「R その他」の表現があることが観察された。

表5に挙げた「O ことができる」「P-1 可能動詞(いただける/もらえる)」「P-2 可能動詞(その他)」「Q よろしいいい」「R その他」について、「締め切り日の延長を依頼する」という文脈で使用した数を調べた。その結果を表6に示す。「締め切り日の延長を依頼する」という文脈で2回使用した者や全く使用しなかった者があり、調査人数と使用数合計は一致しない。

表6 「締め切り日の延長を依頼する」の使用数

調査国	コード	人数	O ことはでき/ ことは可能	P-1 可能動詞 いただける/ もらえる	P-2 その他の 可能動詞	Q よろしい/ いい	R その他	使用数 合計
日本	JJJ	48	11	28	2	2	7	50
			22.0%	56.0%	4.0%	4.0%	14.0%	
中国	CCH	40	0	14 (誤用2含む)	1	10	13	38
			0%	36.8%	2.6%	26.3%	34.2%	
韓国	KKR	49	2	24	4	5	12	47
			4.2%	51.0%	8.5%	10.6%	25.5%	
オーストラリア	GAT	31	1	21	0	5	3	30
			3.3%	70.0%	0.0%	16.7%	10.0%	
スペイン	SES	45	3	20 (誤用10含む)	4	7	9	43
			6.9%	46.5%	9.3%	16.3%	20.9%	

表6からわかる通り、「ことができる」を最も多く使用したのは、日本語母語話者(22.0%)であった。日本語母語話者と学習者の「ことができる」は少し異なり、表5の例を見ると日本語母語話者には「～いただくことができますでしょうか」のように依頼表現の「ていただく」に「ことができる」

を追加した形となっているが、学習者は依頼表現の「ていただく」は使用していない。また、P-1のように「いただけますか、いただけませんか」「もらえますか、もらえませんか」のような表現を用いた者は日本語母語話者も学習者も多く、オーストリアの学習者（70.0%）が最も多く使用した。

さらに、P-2では日本語母語話者は表5からわかる通り、「お願いできますでしょうか」のように依頼表現として使用しているが、学習者は依頼表現ではない可能動詞の使用もみられた。中国の学習者はほかの学習者に比べ「てもいいですか」（26.3%）の使用がやや多かった。

5.4 調査2の考察

調査2の結果、表6のP-1のように日本語母語話者も学習者も依頼表現の「ていただけないでしょうか」のパターンが多くみられた。「締め切り日の延長を依頼する」という文脈では、いずれの学習者も依頼表現の「ていただけないでしょうか」を使うことがふさわしいと考えており、この表現を選択したのではないかと思われる。また、多くの学習者は、表現にバリエーションがなく「ていただけませんか」または「ていただけないでしょうか」として使用しており、チャンクとしてこの表現を使っている可能性がある。日本語母語話者の場合は、「ていただけませんか」は一例もなく、「ていただけないでしょうか」「ていただけませんか」「ていただけないでしょうか」が多かった。特にオーストリアの学習者（70.0%）に「ていただけませんか」が多くみられた理由は、事前の指導があったからだと思われる。I-JASのフェイスシートにはオーストリアの学習者のうち、複数名に事前にメール文の指導を受けたという記述がみられた。

一方、日本語母語話者の場合、別の形の依頼表現も用いている。(6)の表5のOの例「ていただくことはできますでしょうか」のように、「てただける」のような可能動詞を使用せず、「ていただく」に「ことができる」を追加した形を使用している。

(6) 表5のOの日本語母語話者の例

- ・期日を2、3日後に延ばしていただくことはできますでしょうか？（JJJ19）
- ・提出期日を延ばしてもらうことはできるでしょうか。（JJJ15）
- ・レポートの提出締切を延長していただくことはできませんでしょうか。（JJJ20）
- ・締切日を延長していただくことは可能でしょうか？（JJJ33）

学習者にも「ことができる」の使用がみられるが、その形は日本語母語話者と異なり、「ていただく」は付加されていない。(7)に表5のOの学習者の例を示す。

(7) 表5のOの学習者の例

- ・期末レポートの提出期間を明後日までに延ばすことはできませんでしょうか。（KKR38）
- ・よろしければあっさまでに出すことはできませんか。（GAT25）
- ・それは明後日、プロジェクトを与えることができますか。（SES07）

(7)のような例は、金（2022）が述べているように、依頼を含意させる表現であり、依頼としての機能は果たしているように思われるが、親疎関係の疎の相手に送るメールとしては丁寧度が下がりふさわしくない。したがって、丁寧に依頼をするのであれば、「ていただけないでしょうか」の方がよく、

さらに丁寧にしたのであれば「ていただくことができますでしょうか」にすればよいということになる。日本語母語話者の場合、「ていただけないでしょうか」ではなく「ていただくことができますでしょうか」を使用する者もいたことから、「ことができる」は配慮表現の一つと考えてもよいと思われる。

前田 (2021:51) は、「してもらえる？」のバリエーションを示している。図1は前田の示したものである。依頼表現には、図1だけでも、実際に口頭表現として使われているものは15種類あるが、今回のデータでは「ていただくことができますでしょうか」の例がみられたことから、さらにバリエーションを加えることも可能である。図2の①～⑧は「ことができる」を含む依頼表現を加えたものである。

		丁寧さ →			
		1人称主語 + もらう + 可能 + 疑問			
		否定	推量	否定推量	
非敬語	普通体	もらえる？	もらえない？	【もらえるだろうか】	【もらえないだろうか】
	丁寧体	もらえますか？	もらえませんか？	もらえるでしょうか	もらえないでしょうか
			もらえますでしょうか	もらえませんでしょうか	
敬語	普通体	いただける？	いただけない？	【いただけるだろうか】	【いただけないだろうか】
	丁寧体	いただけますか？	いただけませんか？	いただけますでしょうか	いただけないでしょうか 【いただけませんか？】

図5. 「～してもらえる？」のバリエーション

図1 前田 (2021 : 51) の「～てもらえる？」のバリエーション

		1人称主語+もらう+可能+疑問					
		否定	推量	否定推量			
非敬語	普通体	もらえる？	もらえない	【もらえるだろうか】	【もらえないだろうか】		
	丁寧体	もらえますか？	もらえませんか？	もらえるでしょうか	もらえないでしょうか	①もらうことはできるでしょうか	②もらうことはできないでしょうか
			もらえますでしょうか	もらえませんでしょうか	③もらうことはできますでしょうか	④もらうことはできませんでしょうか	
敬語	普通体	いただける？	いただけない？	【いただけるだろうか】	【いただけないだろうか】		
	丁寧体	いただけますか？	いただけませんか？	いただけますでしょうか	いただけませんか？	⑤いただくことができますでしょうか	⑥いただくことはできないでしょうか
いただけないでしょうか					⑦いただくことができますでしょうか	⑧いただくことはできませんでしょうか	

図2 前田 (2021) の「～てもらえる？」のバリエーションに追加した表現

図2からわかる通り、依頼表現は前田の15種類に8種類を追加し、23種類となる。日本語母語話者の場合、無意識に使い分けしているだろうが、学習者がこのようにたくさんの依頼表現を覚えるのは容易なことではないだろう。そのこともあって、学習者に多かったのは「ていただけませんか」または「ていただけないでしょうか」だったのだと思われる。

調査2からは次のことが言えるのではないだろうか。

(エ) 日本語母語話者は丁寧に依頼する場面では「ていただくことができますでしょうか」を使用することがあるが、学習者はその表現を用いない。

(オ) 依頼表現において「ていただけないでしょうか」より「ていただくことができますでしょうか」の方がさらに丁寧な表現になる。

(カ) 依頼表現のバリエーションは種類が多く、すべての表現を理解して状況に応じた表現を選択することは学習者にとって難しい。

6. まとめと今後の課題

本研究では、レポート（原稿）の提出遅れの連絡のメールタスクを用い、以下の点を明らかにした。

1) 日本語母語話者、および日本語学習者は上記のタスクで可能表現をどのように使用しているか。

「提出できないことを伝える」際や「締め切り日の延長を依頼する」際、日本語母語話者は、可能動詞ではなく「ことができる」を用いる傾向がある。日本語学習者は可能動詞と「ことができる」を区別して使用していない。

2) 両者の使用状況から、「ことができる」はどのように使うのがよいのか。

「ことができる」は書き言葉的で、より相手に対して配慮を示す必要がある場合に使用する傾向があることから、特に親疎関係の疎の相手に対して丁寧に言う場合用いるとよいと思われる。

3) 「ことができる」を指導する際に留意すべき点は何か。

初級で指導を行う「ことができる」を中級以降で指導することはほとんどないことから、メール文に限らず何か改まった場面を設定し再度指導した方がよいと思われる。特に親疎関係の疎の相手に可能か不可能かについて説明する場合や依頼する場合には、「ことができる」を用いるとより丁寧な表現になることを指導するとよいだろう。依頼表現はバリエーションがあり、状況に応じて使い分けをすることは難しいが、依頼表現のバリエーションの全体像を示したうえで、指導を行うとよいのではないだろうか。種類も多いため、その表現を選択するかどうかは学習者個人の意志に任せるのがいいだろう。

本研究は「ことができる」を中心にI-JASのデータを見てきたが、その他の表現の中には、いくつか気になる表現もみられた。例えば(8)や(9)のような表現である。

(8)表3のC

- ・明日の締め切りには間に合わないのです。(CCH09)
- ・どうしても明日までは無理だと思います。(KKR38)

(9)表5のP-2

- ・どうしてもレポートの期限延長はできませんか。(KKR41)

文法的な誤りはないが、メールを受け取った場合、よい印象は与えないと思われる。「間に合わない

のです」と主張されるよりは「間に合いそうにありません」のような控えめな表現の方がいいだろう。また「無理」より「難しい」の方が適切に思われる。「延長できませんか」は依頼の含意かもしれないが、延長を強要されている印象を受ける。

相手に対し配慮したメール文が書けるように、このような文の使用状況についても確認し、指導方法について検討していきたい。

注

- 1 『多言語母語の日本語学習者横断コーパス』 (I-JAS) <https://www2.ninjal.ac.jp/jll/lsaj/> (2025.1.31 アクセス)
- 2 SPOT90 については、<https://ttbj.cegloc.tsukuba.ac.jp/p1.html> (2025.1.31 アクセス) を参照。

参考文献

- 市川保子 (2005) 『初級日本語文法と教え方のポイント』 スリーエーネットワーク
- 金庭 久美子, 金 蘭美, 橋本 直幸, 川村 よし子 (2017) 「相手の要求に応じられない場合の対応の仕方—メール文における日本語母語話者と日本語学習者の違い—」 『日本語教育方法研究会誌』 24-1、80-81
- 金玉英 (2022) 「可能形式を用いた日本語の「依頼」表現」 『ことば』 43、39-56,
- 迫田久美子 (2020) 「I-JAS 誕生の経緯」 迫田久美子・石川慎一郎・李在鎬 (編著) 『日本語学習者コーパス I-JAS 入門：研究・教育にどう使うか』, 2-13, くろしお出版
- 渋谷勝己 (1998) 「中間言語における可能表現の諸相」 『阪大日本語研究』 10、67-81
- 寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味』 くろしお出版.
- 前田直子 (2021) 「敬語表現と文法 授受動詞の用法を中心に」 『待遇コミュニケーション研究』 18、52-67